

経済生産構造と、アイデンティティ-の融合は？

NHKスペシャル「フリータ-漂流」を観た。IT企業はコストダウンのためにオートメ化に投資してきたが、消費者のニ-ドに応じて生産モデル変更が頻回であり、その都度オートメ投資では採算が合わず、人海戦術で乗り越えるために、人材派遣会社でなく、一部単純作業の生産ラインの部分毎に請負会社に発注するという企業側の背景があるよう。請負会社は、全国から期間限定でフリータ-を募集する。フリータ-は年齢制限もあり、今、約100万人の若者がこの原動力になっており、この傾向は今後更に増すという。

急な生産ライン部門の変更にも請負会社は直ぐに対応しなくてはならない。熟練を必要としないマニュアル通りの単純作業だけに、「自分でなくてもいいような仕事。自分の代わりはいくらでもいそう。」と呟き、約半数が契約期間の半数の期間内で辞めていくという。自分のアイデンティティ-を感じられない仕事では、さもあらん、と想像できる。

福祉分野は人間相手だけに、アイデンティティ-を日々実感できる仕事と思うが、その福祉分野ですら、資格、資格と口うるさい実情。資格もある程度の知識、技術を拾得したというに過ぎないのだが、往々にして、係わる当事者を、無意識の内に資格からの生産ラインの対象の部品の如くしか観ないで対応するという弊害を生んでいるように思う。例えば、あるメル友からの情報だが、障害のある我が子の食事に熱心に取り組んでいる母親に、あるPTが「その食べさせ方では、よくない。」と云ったがために、母親はその後うつ状態になったとか。PTは、自分の持つ知識、技術というマニュアルから考えて、適切でないといったのだろうが、正に弊害の象徴的な事例のように思える。

先のフリータ-、また、ニ-トと呼ばれる若者たちの問題は、いずれも底流には自らのアイデンティティ-に苦悩する姿が見える。一方、アイデンティティ-を感じることの出来る最期の砦と思われる福祉分野でも、経済優先の価値観の影響が陰を落とし出したように思う。

自らのアイデンティティ-の喪失感の先行で、人はどうした行動に追いつめられるかは、最近の事件報道からも垣間見えると思う。

この社会の経済生産構造の問題と、自らのアイデンティティ-の問題をどう融合させるか、これからの社会の大きな課題のように思う。

そのヒントは、当事者のアイデンティティ-に向き合う福祉分野にあるはずだが.....。